

優秀研究企画賞（富士電機賞）表彰報告

若手育成事業委員会

2021年9月10日（土）～9月11日（日）の両日に、オンラインで開催されました2021年会において、2020年度の優秀研究企画賞（富士電機賞）の研究成果の報告として、講演が行われました。また、10日の夕刻に表彰式が行われました。以下、その概要と受賞者の喜びの声を紹介します

優秀研究企画賞（2020年富士電機賞）

◎ 松本 健一 東洋大学経済学部・准教授（受賞当時、長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科・准教授）

受賞研究企画「離島における再生可能エネルギー導入の環境経済効果：長崎県対馬を対象として」

〔賞の創設ならびに受賞者選考・表彰経過〕

若手研究者による創意ある研究企画の提案や研究発表を支援するため、優秀研究企画賞ならびに年会優秀発表賞が2008年度に創設されました。この趣旨にご賛同いただいた富士電機株式会社様より毎年ご寄付をいただき、優秀研究企画賞（富士電機賞）として賞の授与を行っています。これにより、新たな研究テーマの開拓や年会での活発な研究討論などに進展が見られ、若手研究者を核とした学会の活性化が図られています。

優秀研究企画賞（富士電機賞）の選考は、会告にもとづき正会員から応募された研究企画について、環境科学分野における新規性や注目度、社会的有用性、これまでの実績にもとづく発展性などの観点から、若手育成事業委員会優秀研究企画賞選考委員が厳正なる審査を行います。この後、理事会での最終審議を経て、2020年度は1名の受賞者を決定しています。受賞者は、計画に沿って研究を実施し、2020年会でその成果報告を行ったところです。

表彰式は2021年会においてオンラインで執り行われました。なお、研究課題の円滑な推進を支援する意味を込めて、副賞（20万円）が研究実施に先立って贈呈されています

〔優秀研究企画賞〕

受賞者氏名：松本 健一（東洋大学経済学部）

受賞研究企画：「離島における再生可能エネルギー導入の環境経済効果：
長崎県対馬を対象として」

略歴：1982年生まれ

2003年 関西学院大学総合政策学部卒業

2004年 早稲田大学大学院情報生産システム研究科情報生産システム
工学専攻修了

2007年 関西学院大学大学院総合政策研究科総合政策専攻修了 博士
（総合政策）

2007年 関西学院大学総合政策学部・受託研究員



松本 健一(まつもと けんいち)
東洋大学経済学部

2008年 国立環境研究所地球環境研究センター・特別研究員

2011年 滋賀県立大学環境科学部・助教

2016年 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科（環境科学部担当）・准教授

2021年 東洋大学経済学部・准教授 現在に至る

成果報告発表要旨：環境科学会 2021 年会講演集、p. 51

持続可能・脱炭素社会の実現に向け、離島においても再生可能エネルギー（再エネ）の導入拡大が急務である。しかし、本土と電力の系統連系がない離島で再エネの導入を拡大するには蓄電池の増設が不可欠であり、その導入効果を明示することが重要である。本研究では、長崎県対馬市を対象として、離島における再エネ電力（蓄電池含む）拡大による経済波及効果等を産業連関分析により明らかにした。本研究の元となる対馬市の産業連関表としては、価値総合研究所が提供する産業連関表（2015年・38部門）を利用した。しかし、同表は再エネ関連部門が分割されていないため、関連部門を分割した再エネ分析用産業連関表（50部門）を作成した。次に、対馬における再エネの導入量を設定するために3つのシナリオを構築した。シナリオ1は対馬における2011～17年の太陽光・風力発電による発電量の増加に基づくもの、シナリオ2は長期エネルギー需給見通しに基づくもの、シナリオ3はInternational Energy AgencyのWorld Energy Outlook 2020に基づくものである。蓄電池については、いずれのシナリオにおいても現状の再エネと蓄電池の設備容量の比率に応じて導入されるものと仮定した。なお、再エネ発電が増加しても総発電量は変化しないものとし、火力発電による発電量が相当分、減少するものとした。次に、経済波及効果等を分析するために、各シナリオにおける設備容量と発電量の増加による最終需要の増加を計算した。分析の結果、経済波及効果および雇用効果は再エネの導入量が大きくなるほど大きくなることが示された。本研究で想定したシナリオの下での対馬島内における再エネの経済効果は、経済波及効果は146.3～578.6(百万円/年)で域内総生産の0.15～0.58%程度、雇用効果は5.7～22.7(人/年)で島内雇用の0.039～0.15%程度であった。今後は、バイオマス等による熱利用や輸送分野での再エネ導入効果についても分析を拡張することで、離島における持続可能な社会の構築に向けた研究を進めていく。

受賞者からの一言：

この度はこのような賞をいただき、大変嬉しく思っております。富士電機株式会社様、環境科学会の選考委員の皆様、その他の関係者の皆様に御礼申し上げます。

本研究企画は、環境科学会 2019 年会において大阪大学・松村悠子さんの対馬の再エネに関するポスター発表を見たところからスタートしました。私が当時、長崎大学に所属していたこともあり、その対馬研究に興味を持ち、松村さんといろいろと話をしているうちに、対馬における再エネ導入の経済効果に関する研究のアイデアにたどり着きました。2021 年会での発表により研究成果として一定のまとめをすることはできましたが、分析をブラッシュアップして、きちんと研究論文としてまとめ上げたいと考えております。また、これまでの取り組みをここで留めることなく、引き続きグローバル・ローカルの両方の視点から持続可能な発展に貢献できる研究に取り組んでいきたいと考えております。